

(巻頭言)

教員採用選考試験の早期化・複線化

教職課程センター長 松尾 知明

質の高い人材を確保することを目的に、教員の採用のあり方が注目を集めており、教員採用選考試験において「早期化・複線化」といった取り組みが全国的な広がりを見せている。これは、近年の民間企業の就職活動の早期化や公務員採用試験の前倒しを受けての施策で、従来の「4～5月に出願、7月に1次試験、8月に2次試験、9～10月に合格発表」といった各教育委員会による採用選考試験のスケジュールが見直され、早期化・複線化といった動向が顕著になっているのである。

背景には、採用選考試験の倍率が低下傾向にあることがある。例えば、文部科学省による令和5年度（令和4年度実施）の調査によれば⁽¹⁾、都道府県・指定都市教育委員会等（計68）が実施した公立学校教員採用選考試験における全体の採用倍率は過去最低の3.4倍（小学校2.3倍〔過去最低〕、中学校4.3倍、高校4.9倍）で、前年度の3.7倍から減少した。採用者総数は35,981人で前年度に比較して1,666人増加、受験者総数は120,963人で前年度に比較して5,427人の減少であった。大量退職等に伴う採用者数の増加と既卒の受験者数の減少により、採用者数は増えている一方で受験者数が減っているため、採用倍率の低下という現象が生まれているのである。

こうした近年の採用倍率低下という状況に対応するために、2022年2月に文部科学省の中央教育審議会では、教員採用選考試験における実施時期の早期化・複線化を促す政策提言を行っている。さらに、文部科学省に「採用選考試験の早期化や複数化の実施を含む改善の在り方についての協議会」が設けられ、23年5月には「早期化・複数回実施等について方向性の提示」と題した文書⁽²⁾が公表されている。同文書では、採用倍率が低下している近年の教員採用選考試験をめぐる状況が分析され、教員採用選考試験の早期化および複数回実施に関する課題と関連方策が整理されている。

では、教員採用選考試験の早期化・複線化の実施状況はどのようになっているのだろうか。

2024年度の1次試験開始日をみると、枠に示すように、5月11日から7月20日までとなっている⁽³⁾。文部科学省により、2025年度の教員採用試験の基準日を5月11日とする旨の通知が出されたこともあり、従来は7月実施であった1次試験が、5月実施の自治体も出てくるなど全体的な早期化が進んでいることがわかる。

- | |
|--|
| <p>・5月：11日 静岡県、静岡市、浜松市、12日 茨城県</p> <p>・6月：1日 高知県 8日 鳥取県 15日 岐阜県、愛知県、名古屋市、三重県、京都府、京都市、大阪府、大阪市、堺市、豊能地区、兵庫県、神戸市、奈良県、和歌山県 16日 北海道、札幌市、新潟県、新潟市、滋賀県、福岡圏、福岡市、北九州市、佐賀県、長崎県、熊本県、熊本市、大分県、宮崎県、鹿児島県、沖縄県 29日 福井県、長野県</p> <p>・7月：6日 栃木県、島根県、岡山県、岡山市、山口県 7日 群馬県、千葉県、千葉市、埼玉県、さいたま市、東京都、神奈川県、横浜市、川崎市、相模原市、山梨県 13日 青森県、岩手県、宮城県、仙台市、秋田県、山形県、福島県、富山県、広島県・広島市、香川県 20日 石川県、徳島県、愛媛県</p> |
|--|

出典「2024年実施 1次試験開始日 全国マップ」『教職課程』7月号、協同出版、16-17頁。

一方、複線化については、とくに大学3年生受験の動きが広がっている。2024年度においては、枠に示すように、大学4年次に加え、大学3年次に受験できる自治体が全66自治体の半分以上に増加している⁽⁴⁾。ほとんどの自治体では、前倒して受験できるのは筆記試験のみとなっている。

同時期に実施（2024年5～7月一般選考の1次試験で実施）

- ・ 全校種対象（小中高特養栄）：福島県、埼玉県、さいたま市、富山県、福井県、山梨県、岐阜県、愛知県、名古屋市、滋賀県、京都市、大阪府、兵庫県、神戸市、香川県、愛媛県、佐賀県
- ・ 小学校もしくは小学校と特別支援学校のみ：山形県（小と特〔小〕）、川崎市、新潟県、新潟市、石川県（小と特〔小〕）、三重県、豊能地区、奈良県・大和高田市（小と特）、鹿児島県
- ・ その他：栃木県、群馬県、千葉県・千葉市、東京都、岡山県、広島県・広島市（以上、小中高特養）／横浜市（小中高特）、相模原市（小中養）、京都府（小中高特）、大阪市（小中養栄）、堺市（小中と特〔小〕〔中〕）、岡山市（小中養）、福岡県（小中特）、北九州市（小中特養）

それ以外の日程で実施

北海道（小中高特養栄）、札幌市（校種未定）、神奈川県（小中高特養）、和歌山県（小）

出典「2024年実施 大学3年生等受験 全国マップ」『教職課程』8月号、協同出版、16-17頁。

以上のように、質の高い人材の確保のために、教員採用選考試験の実施時期をめぐっては早期化・複線化といった状況が全国的な展開をみせながら進行しているのである。こうした状況に対応して、本学の教職課程センターにおいては、情報提供を行うとともに、大学3年生受験の希望者に対して講座や個別指導を実施したりしている。今後とも、各教育委員会における採用試験の早期化・複線化の動向を注視しつつ、本学の教職課程として何ができるかについての対応を検討していく所存である。

なお、採用試験実施時期の早期化・複線化といった政策の推進のみによって、教職志望者の大幅な増加が見込めるとは考えにくい。問題の根底には、教員の働き方、処遇の改善、学校の指導・運営体制の充実等があり、教職の魅力をいかに高めていくのかが中心的な課題と考えられるからである。こうした教職をめぐる抜本的な改革については、中央教育審議会「質の高い教師の確保特別部会」において検討が進められているが、教職の魅力向上に向けて思い切った施策の展開が期待される。

注

(1) https://www.mext.go.jp/content/20241226-mxt_kyoikujinzai01-000033218_11.pdf(2025.1.13 最終閲覧).

(2) https://www.mext.go.jp/content/20230531-mxt_kyoikujinzai02-000011998_1.pdf(2025.1.13 最終閲覧).

(3) 「2024年実施 1次試験開始日 全国マップ」『教職課程』7月号、協同出版、16-17頁。

(4) 「2024年実施 大学3年生等受験 全国マップ」『教職課程』8月号、協同出版、16-17頁。